

## 大野城市共働事業提案制度 事業評価及び意見集約表

事業名：不登校児童生徒に関する訪問型支援事業

実行委員会名：不登校児童生徒に関する訪問型支援事業実行委員会

評価項目		評価点	評価	推進委員意見
共働の必要性	市民への効果	21.8点 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の問題は本人だけでなく家族にとっても解決が望まれるものであり、解決につなげることで市民への効果(満足度)が期待できる。</li> <li>・登校につながったケースや家族を含めた支援で、着実な成果が見られる。</li> <li>・相互の連携をより強化しながら、今後の保護者などへの訪問相談の増加に対応願う。</li> </ul>
	共働の相乗効果	21.8点 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の強みや専門性を活かし、目的を共有しながら良好な関係性で事業が進められている。制度終了後も、この関係性が維持されることを期待したい。</li> </ul>
	共働事業の実施過程	22.2点 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に事業に対する価値を見出し、前向きに取り組む姿勢が見られる。また新たな団体との連携が始まっており、制度終了後も3年間で得たノウハウを活かし、関係性の維持・継続に尽力願いたい。一方、コロナ禍により未実施の取組については今後拡充してもらいたい。</li> <li>・評価項目の設定など具体的数値化が出来ており、共働の成果であると思われる。</li> </ul>
事業の実現性	目的・目標の達成度	21.8点 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施の流れもスムーズであり、支援者の人材不足も解消されている。</li> <li>・家族以外との接点、居場所づくり、家族・学校以外の接点、保護者の不安解消や子どもたちへの適切なアプローチにつながっていることがよく理解でき、システムの構築など、一定の目的・目標は達成されていると感じる。今後も工夫改善しながら継続し、多くの子どもたちが救われるよう期待したい。</li> </ul>
	※事業の発展性(波及効果)	5.6点 / 10点	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の事情は多様であると思われるのでより幅広い支援が必要である。新たな団体との連携により、今後の事業発展・拡充に期待したい。</li> <li>・大野城市での取組事例(モデル)として確立できたことで、今後他市町村への広がりにも大きな期待が持てる。</li> </ul>
	※事業の再現性(スキームの確立)	4.6点 / 10点	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度終了後の事業実施につながっている点が評価できる。このノウハウを他団体にも伝えていくことで再現可能と思われる。</li> <li>・訪問事業を担うことができる人材は多くはないと思われ、他団体との連携で十分に人材不足が解消できるのか今後見守る必要がある。</li> </ul>
<b>総括</b>		<b>97.8点 / 120点</b>	<b>S</b>	

※項目は、加点点項目